

## 全戦没者を悼み平和を願うつどい2013が開催

八月五日の月曜日、午後六時半から『全戦没者を悼み平和を願うつどい2013』が、西本願寺高岡会館礼拝堂で開催され、今回で二十回目を迎えた。テーマは「平和と平等 反戦僧侶のメッセージ」。約九〇名の参加者と共に、宮川善裕教務所長の調声のもと、第一・第二ブロック各組の出勤をいただき、第一部『全戦没者追悼法要』が勤修された。各教化団体代表者をはじめ、つどいに参加された方々全員が正信偈のお勤めの中、焼香をされた。

引き続き第二部の『平和を願うつどい』では、大東仁さん（愛知県一宮市・圓光寺住職）よりお話をいただいた。写真

大東先生は、戦時中に「戦争は罪悪である」と言われ、逮捕・有罪となり、真宗大谷派からは僧侶と布教使の資格をはく奪され、七十年後に名誉を回復された竹中彰元氏について話をされ、初めは戦争を肯定的にとらえていた竹中氏が、いかにして反戦行動に至ったのかを氏の生涯や時代背景を中心に話された。

その中で、戦時中に行われていた仏教界における戦時教学や布教は、日清戦争が起

きた十年前の明治十六年からその準備が行われてきたと指摘。先生は、仏教の教え、「不殺生」に反して、大谷派や他の宗派は「一殺多生」という言葉を用意し、少し殺して多くが生きて、多くを生かすためだから少しくらいは殺してもかまわないという布教をし、当時の竹中氏も「一殺多生」の布教を積極的に行っていたと言われた。しかし、満州事変を経て、日中戦争が始まると、反戦言動に出て、門徒総代の息子



をはじめとした若者が出征に行く際には、「戦争は罪悪であると同時に人類に対する敵であるからやめた方がよい」と言われた。その一ヶ月後、また近所の僧侶に向かって、「このたびの事変について侵略のように考える。いたずらに彼我の生命を奪い、大乗的立場から見てもよろしくない。戦争は最大の罪悪である。もうここらで戦争をやめたほうがよい」と述べ、戦争反対の立場を鮮明にしたが、仲間の僧侶からの通報で逮捕・有罪となり、大谷派からは僧侶と布教使の資格をはく奪されるという処分をされ、終戦まで氏の名誉は回復されなかったと述べられた。

最後に先生は、このような生き方をされた竹中氏の意思が伝わってほしく、これからもおつきあいをし続けていきたい」とまとめられた。

参加者からのアンケートでは、「反戦を唱えた方が一人しか居なかったのが残念に思えてならない。もっと多ければ戦争は中止されたのでは」「何のための戦争だったのか？多くの犠牲者を出し、日本は何を得たのか？もう二度としてはいけない。いかなる理由がある」という声があった。

実践運動教区委では今後も、時局の問題への対応ということも含め課題として取り組んでいく予定である。

## 仏教婦人会連盟実践運動研修会 が開催

去る七月二十三日（火）、「仏教連盟実践運動研修会」が開催された。今回のテーマは「老いをどう生きるか」と題し、講師に勝田登志子氏（認知症の人と家族の会 富山県支部事務局長）をお迎えし、お話を聞かせていただいた。

現在六十五歳以上の三丁四人に一人の割合で発症している認知症のことを中心に講義がなされた。概要は、認知症の人と家族の会の生きようメッセージ「死ななないで！殺さないで！」

家族がつくった「認知症」早期発見のめやす  
自分で気付くポイント・周りが気付くポイント

「認知症の法則」を知って上手に対応  
九大法則一原則・・・杉山孝博先生著書より等、どちらかと言うと深刻な内容なのに、楽しく笑いながら学ぶことができた。

『家族のことで悩んでいたときに、実母が「あたりやちや」と聞かせてくれた言葉、義母が何かの折りに「ナンマンガブツと言うのはね、葬式の時しかいらんもんや思うとるやる。そうやないがやぜ、生きておる毎日の中にナンマンガブツがいるがやぜ。」と言われたことが、後々になって頷けるようになった。

「私の老いを誰が見てくれるのか、子供の世話にはなりたくない」と耳にすることがあるが、それは突き

詰めていけば自分の内にある差別と偏見意識からでてくる言葉。誰も自分が優位なところ

ろに置きたい思いをもっている。自分自身と向き合っ  
て自分に問うていかないと無くならない問題である。  
認知症は本人が一番つらい病気である。認知症になっ  
たって、みんなで支えられるお互いの病気であるこ  
とを知って、住み慣れた街で生きられる地域をつくっ  
ていけるとよい』と、力強く聞かせてくださった。

九十名の参加者にとって、まさに自分の問題として  
受け止めることができ、質問にも丁寧に答えていただ  
き、納得のいく研修会であった。



心に留めるだけでなく、まずは自分の出来ることか  
ら行動に移そ  
う。そして、高  
齢化社会を安  
心感をもって  
生きられるよ  
うに会員同志  
の情報交換を  
大切にしてい  
きたいものだ  
と思いました。  
（仏教婦人会  
連盟委員長 石  
野順子）

### 仏青からのお知らせ

教区仏教青年連盟では、全国真宗青年のつどい及び第2ブロック真宗青年のつどいに参加いただける方を募集しています。参加者は、教区内の他の参加者と団体での行動となります。

**第2ブロック真宗青年のつどい** テーマ；「吉崎さんぽ」～伝える、伝える～

期日 9月7日（土）～8日（日） 本願寺吉崎別院

参加費 8,000円

**全国真宗青年のつどい熊本大会** テーマ；本当に「大切にする」ということ

期日 10月12日（金）～14日（日） つどいは、13日～14日です。

参加費 12,000円（交通費は別途になります）

いずれも対象者は40歳くらいまでの青年活動に関心のある方です。お問い合わせは（富永）まで

## 御同朋の社会をめざす運動の「トナー」

「全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一三」に参加して八月五日、敵味方を超えた全ての戦没者を悼み、二度と戦争を起こしてはならないとの願いをこめた「全戦没者を悼み平和を願うつどい」が開催されました。今年は二十回目をむかえ、ご講師に大東仁氏（真宗大谷派・圓光寺住職）をお迎えし、「平和と平等 反戦僧侶のメッセージ」という講題でお話をいただきました。

私たちの教団は、明治から昭和二十年八月十五日まで、大東氏の言葉を借りれば「釈尊を邪魔者扱いし、親鸞聖人を邪魔者扱い」して、時の国家の為に積極的に戦争協力をしてきました。しかし、そんな状況の中で真宗大谷派僧侶・竹中彰元氏は「戦争は罪悪である」と発言し、逮捕処罰され、また教団からも厳しい処罰を受けました。今回は、そんな竹中彰元氏にまつわるお話を聞かせていただき、今これからの私たちのあり方を考えていきたいという思いから企画させていただきました。

今回の「つどい」に参加して改めて思ったことですが、竹中彰元氏は決して「特別な人」ではないということです。初めから非戦平和・反差別への熱い思いを持っていた人ではなく、「勉強熱心な田舎のお坊さん」といった感じでしょうか。しかも、彼が学んでいたのは「非戦平和・反差別の教学」ではなく、「一殺多生（多くの人の生存と繁栄の為に少しの犠牲は仕方がないという教え）」に代表される「国家繁栄・富国強兵のための教学」でした。彼が学んだ教学には「非戦平和・反差別」はなかったのです。そして、その後は「模範的な真宗大谷派僧侶」として布教活動をされました。ここで感じるのは、戦争協力する教団のために熱心に活動する真面目な僧侶の姿です。

そんな竹中彰元氏が何故反戦言動をするようになったのか。個人的にも知りたいところでしたが、大東氏が一つのきっかけになったこととして話されたのは、昭和十一年に大谷派が行った聖典削除（聖典の中の天皇不敬に当たる部分を削除したこと）、そして神祇不拝を言った当時の大谷大学学長・河野法雲氏を教団が辞任させたこと、さらには昭和十一年から十二年にかけて真

宗大谷派法主（門主）が明治神宮や靖国神社、伊勢神宮を参拝したこと、これらの三つでした。つまり、聖典や神祇不拝といった信心に関わる部分に国家が踏み込んだことがきっかけとなって、戦争を進める国家（そして教団）のあり方に疑問を持つようになったのでしょうか。

しかし、ここで問われることがあります。本願寺派が聖典削除を行ったのは昭和十五年ですが、それに対して一部の本願寺派僧侶が抵抗しているのです。また、神祇を拝することに關しても、門信徒の方々が中心となって厳しく抵抗した地域があります。しかし、竹中彰元氏のように反戦言動をする僧侶は出てきませんでした。

これらのことについてももう少し詳しく言いますと、私たち本願寺派は「私たちが大切なものとしている信心に関わる部分（聖典や神祇不拝）に国家が踏み込んでくる場合、それを守る意味で抵抗する一方、国家や社会のあり方は問わない、むしろ協力していく」という姿勢をとったのでしょうか。つまり、大切な聖典や信心さえ守ればそれで良い、国家や社会は問わない、といったところでしょうか。しかし、竹中彰元氏は、そんな国家のあり方に疑問を持ち、「戦争は罪悪である」「彼我（中国人と日本人）の生命を奪うことは大乗的立場から見ても宜しくない」という反戦言動につなげていったのです。

この両者の違いについて、私自身もまだ考えがまとまらない部分もありますが、今後の課題の一つとしていきたいです。

今回の「つどい」で私が受け止めた竹中彰元氏のメッセージは「国家や社会のあり方に疑問を持ち、問い糾す」ということでした。今、「一殺多生」のシステムともいえる原教が次々と再稼働されつつあり、また「戦争できる国」になるために憲法改正が進められています。そんな状況だからこそ、国家や社会、それを作っている私のあり方について考え、竹中彰元氏と「お付き合い」していきたいと思えます。

これからの日程 ( 8 / 2 0 ~ 9 / 2 1 )

8月		
19	聖典セミナー ( 5 回目 ) 寺青手話サークル 同朋問題専門委員会	龍谷大学宗学部巡回 ( 1 9 ~ 2 8 )
20	ヤスクニ問題専門委員会 寺院女性会連盟執行部会	ブロック講社研修会 ( ~ 2 1 ・福井 )
21	寺青声明サークル	
23	財団評議員会	
24	本山杯 50 周年懇親会 ( 富山 )	B 保育大学講座
25	本山杯野球大会 ( 富山 )	( ~ 2 5 ・福井 )
26	仏婦・寺女合同研修会	
27	ハンセン病ふるさとネット 北陸同朋者推進研修会 ( 富山 )	<b>8月14日より、 17日まで、教務 所事務休業いたし ます。</b>
28	長寿苑ビハーラ活動 教区コーラス練習日	
29	教区布教団研修会	
30	非戦・平和学習会 ( 4 回目 ) 教区委常任委員会	
31	寺青ねっと輪 ~ く 準備	
9月		
1	寺青ねっと輪 ~ く	
4	雨晴苑ビハーラ活動 寺青役員会	
5	北陸ブロック組長会 ( ~ 6 )	連区仏壯連絡協議会 ( ~ 6 ・岐阜 )
6		
7	ハンセン病シンポジウム	連区仏青研修会 ( ~ 8 ・福井 )
8		
9		連区少年指導者研修会 ( ~ 1 0 ・富山 )
10	聖典セミナー ( 6 回目 ) 連区布教使研修会 ( ~ 1 1 )	
11	常例法座 寺青声明サークル	
12	連研活動推進者協議会	
13	教区コーラス練習日	
16		仏婦幹部研修会
17	第 1 5 回平和を願うつどい ( 築地本願寺 ) 千鳥ヶ淵法要団体参拝 ( ~ 1 8 )	( ~ 1 7 ・本山 )  千鳥ヶ淵全戦没者追悼 法要
20	僧侶研修会 ( 1 回目 )	
21	僧侶研修会 ( 2 回目 )	



ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 ( K N B ) ・ 7 3 8 k H z .  
毎週土曜日 ( 本山制作 ) 午前 6 : 1 5 ~ 6 : 2 5  
第 2 ・ 4 日曜日 ( 富山 ・ 高岡制作 ) 午前 6 : 0 0 ~ 6 : 1 0

8 / 1 7 ( 土 ) : 楠 眞 氏 ( 岐阜県 ・ 縁覺寺 )

「いのちを共にする」

8 / 2 4 ( 土 ) : 楠 眞 氏 ( 岐阜県 ・ 縁覺寺 )

「無常という真理」

8 / 2 5 ( 日 ) : 奥村 眞照氏 ( 高岡教区 ・ 照伝寺 )

8 / 3 1 ( 土 ) : 野村 康治 氏 ( 大阪府 ・ 瑞松寺 )

「願われないのちを生きる」

9 / 7 ( 土 ) : 野村 康治 氏 ( 大阪府 ・ 瑞松寺 )

「ビハーラの道を歩む」

9 / 8 ( 日 ) : 竹中 了祥 氏 ( 富山教区 ・ 妙順寺 )

9 / 1 4 ( 土 ) : 未 定

9 / 1 5 ( 日 ) : 竜川 知哉 氏 ( 富山教区 ・ 圓光寺 )

9 / 2 1 ( 土 ) : 未 定

【西本願寺高岡会館9月の常例法座】

ご講師: 中山 和 泉 氏  
( 山口 教 区 ・ 西 樂 寺 )

ご講題: 『いのちの行方(ゆくえ)』  
午後 1 時 2 0 分 頃 から ビデオ 上 映 、 2 時 から  
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い  
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 ( 1 7 5 袋 ) 7 , 0 0 0 円

・大 箱 ( 4 5 袋 ) 2 , 0 0 0 円

・小 箱 ( 1 6 袋 ) 9 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1 2 9 8

耳浦 康真 ( 本誓寺 ) Tel. & Fax. ( 0766 ) 23 - 9822